

令和2年度スーパーサイエンスハイスクール事業

Principia I ポスターセッション アブストラクト集

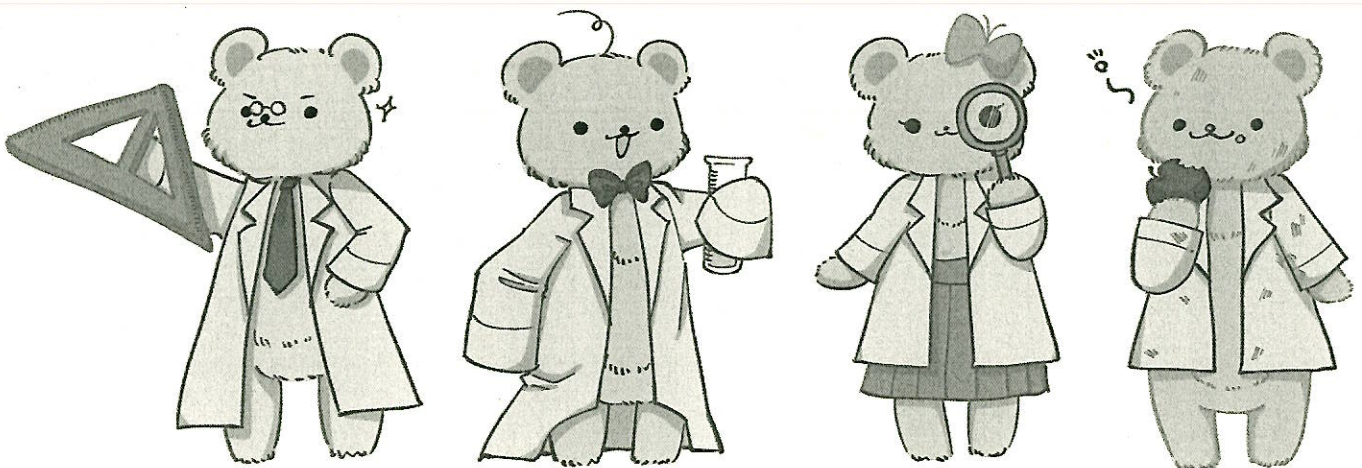
令和3年1月21日(木) 於) 神奈川県立横須賀高等学校教室

ポスター一覧



(<https://cutt.ly/CjE5T0I>)

※当日のみ閲覧可能



組 名前

ポスターセッションの概要

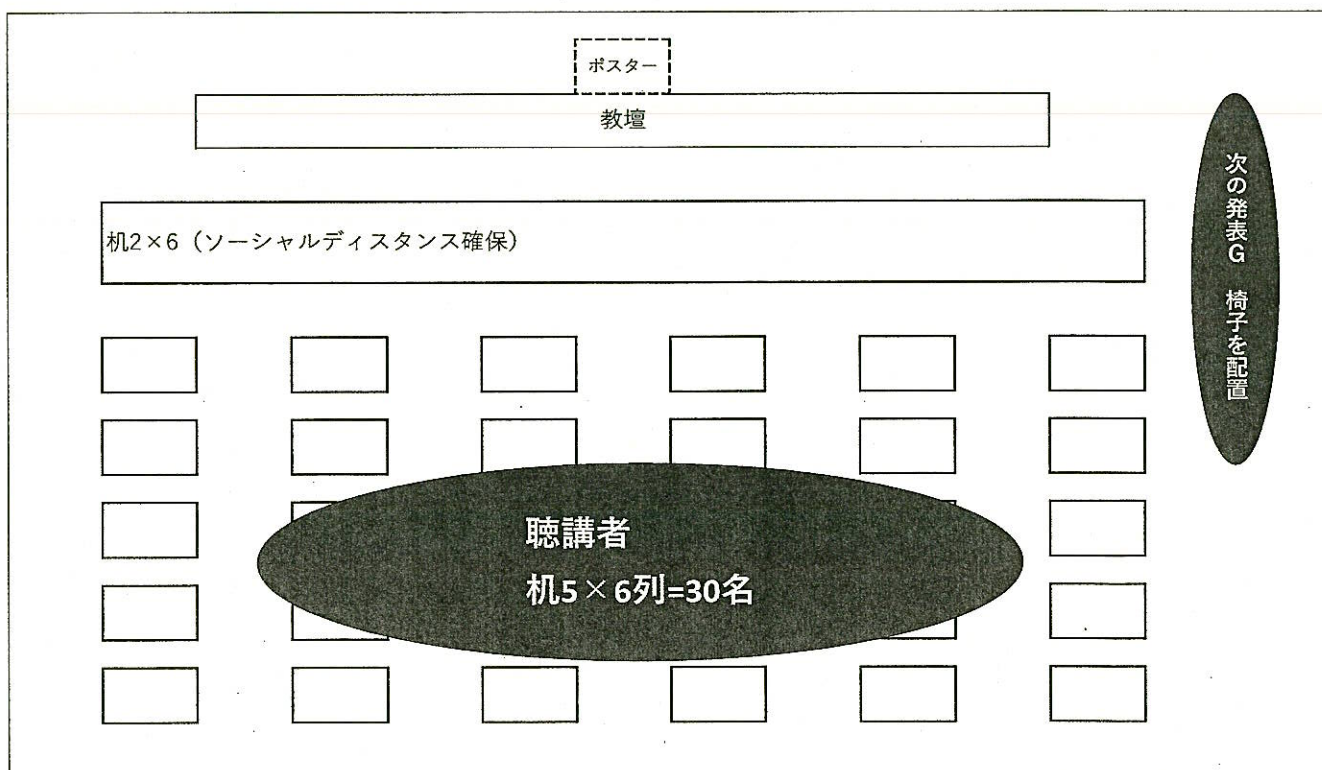
《セッションの実施方法》

- 1グループあたり発表+質疑 10分、移動・準備5分、全ての会場で同時に実施。
⇒ 発表形式は、黒板にポスターを貼って行うオーラル発表。※詳細は会場図参照
- セッションは前半・後半に分けて行う。間の休憩は15分。
⇒ 各セッションの時間はPrin Iが60分(4グループ発表)、Prin IIが45分(3グループ発表)。
- Prin Iは発表2回・聴講6回、Prin IIは発表1回・聴講5回。
⇒ あらかじめアブスト集をみて、聴講する発表(どの会場の発表でも可)を決めておく。
⇒ 発表を聴く会場で「聴講カード」を提出。
- 次に発表するグループは発表会場にて聴講し、質問を行う。

《感染症対策》

- 発表者・聴講者ともに、必ずマスクを着用する。※忘れた場合は保健室へ
- 発表者は教壇上で発表、聴講者は教壇から3m離れた座席で聴講する。
- 各会場での聴講者は最大30名とする。
⇒ 聴講する予定の会場が満席の場合、空きがある教室に移動する。
- 移動中は私語厳禁。

◎会場図



◎当日の日程

1年	2年
9:15～ 9:35 SHR (出欠・検温確認)	自宅学習(以下の課題を自宅で行う) ○Principia 振り返りレポート ○SSH「109の質問紙」 ※午後のSHRで回収
9:45～10:45 前半セッション (4G発表/会場)	
11:00～12:00 後半セッション (4G発表/会場)	
12:05 SHR (12:20 完全下校)	
12:30～12:45 消毒作業 ※2年は12:50以降に登校すること	
自宅学習(以下の課題を自宅で行う) ○Principia 振り返りレポート ○SSH「109の質問紙」 ※翌日のSHRで回収	13:30～13:50 SHR
	14:00～14:45 前半セッション (3G発表/会場)
	15:00～15:45 後半セッション (3G発表/会場)
	15:50 SHR (16:20 完全下校)

◎発表領域

	Principia I		Principia II	
	グループ数	会場	グループ数	会場
領域1 科学技術 (応用)	4G (19名)	A	15G (59名)	L, M, N
領域2 科学技術 (基礎)・情報	15G (60名)	B, C, D, E	22G (54名)	O, P, Q, R
領域3 環境・エネルギー	8G (37名)	F, G	8G (19名)	F, G
領域4 生命・生態	16G (61名)	H, I, J, K	19G (60名)	H, I, J, K
領域5 社会・経済・心理	17G (70名)	L, M, N, O, P	22G (63名)	A, B, C, D
領域6 文化・歴史・言語	8G (28名)	Q, R	6G (19名)	E

【B棟1階】 A会場:1-1, B会場:1-2, C会場:1-3, D会場:1-4, E会場:1-5

【B棟2階】 F会場:会議室, G会場:B2多目, H会場:1-6, I会場:1-7, J会場:2-1, K会場:2-2

【B棟3階】 L会場:B3多目, M会場:サイエンス, N会場:2-3, O会場:2-4, P会場:2-5, Q会場:2-6, R会場:2-7

研究課題・ポスタータイトル一覧

領域	研究機関名	研究課題名	ポスタータイトル	ポスターNo.	会場-発表順
領域 1	港湾空港技術研究所	港湾施設の安全かつ効率的な点検方法	安全かつ効率的なマンホールを使用したカメラでの棧橋の下の点検方法	I 101	A-1
	日産アーク	人が好む匂いには共通点がある	Forever fragrance	I 102	A-2
	日産自動車総合研究所	十字路での事故の発生要因	自転車の交通ルール～事故発生が少ない交差点にする～	I 103	A-3
	横高アカデミア (総研大) 国立情報学研究所	自然災害から身を守る為の知識を人々に教えるゲーム	自然災害から自分の身や大切な人を守る為に	I 104	A-4
領域 2	日産アーク	金属の変色	砂鉄の研究	I 201	B-1
	日産アーク	溶ける前のアイスと再冷凍したアイスの味の違いについて	おいしいアイスが食べたい!	I 202	B-2
	日産アーク	チョコの強度はメーカーや色によって変わるのか比較する	もうチョコは折らせない!	I 203	B-3
	日産アーク	マクロモルフォロジー	マスクの洗濯回数と細孔の開きの相関性～不織布マスクは洗えるのか～	I 204	B-4
	むらせ	若者が好むお米の配合比率の研究	え?まだブレンド米食べてない?	I 205	C-1
	横須賀市自然・人文博物館	テキストマイニングとクロス集計を用いた博物館展示のイメージ分析	テキストマイニングとクロス集計を用いた博物館展示のイメージ分析	I 206	C-2
	横須賀テレコムリサーチパーク	電磁波を用いた地震予測	電磁波を用いた地震予測	I 207	C-3
	横須賀テレコムリサーチパーク	ダークマターについて	ダークマターと重力レンズ	I 208	C-4
	横須賀テレコムリサーチパーク	ホログラフィック技術の活用	ホログラフィック技術の応用	I 209	D-1
	横須賀テレコムリサーチパーク	ブラックホールの性質	ブラックホールの性質について知る ～ブラックホールは銀河の中心にあるのか?～	I 210	D-2
	横須賀テレコムリサーチパーク	5Gと気候変動	5Gと気候変動	I 211	D-3
	横須賀テレコムリサーチパーク	無線利用分野の研究	異機生vs.BYOD	I 212	D-4
	横高アカデミア (総研大) 国立情報学研究所	コンピューターの熱と効率	なぜスマホが熱くなるのか	I 213	E-1
	横高アカデミア (総研大) 国立情報学研究所	効率的に学習する方法を考える。	Which is better?	I 214	E-2
	横高アカデミア (総研大) 国立情報学研究所	人間と人工知能を比較し人間にしか無い強みを考える	人間の強みはここに有る!	I 215	E-3
領域 3	京急百貨店	資源をムダにしないレシートの開発	電子レシート～資源をムダにしないレシートの開発～	I 301	F-1
	京急百貨店	食品ロスを根本から減らす方法	食品ロス～ムダを徹底的に減らすために～	I 302	F-2
	京急百貨店	家庭と販売店の食品ロスの関係	身近な食品ロスを減らそう～家庭と販売店の食品ロスの関係～	I 303	F-3
	京急百貨店	参加型発電	あなたの一歩で、守ろう地球(みらい)	I 304	F-4
	電力中央研究所	天気と集中力の関係	天気と集中力の関係～勉強に全集中!!～	I 305	G-1
	電力中央研究所	石炭を使った火力発電を続けるには	ソーダ石灰によるCO2吸収	I 306	G-2
	電力中央研究所	生分解性プラスチック(ポリ乳酸)の合成	ポリ乳酸の合成～環境に優しいプラスチックを求めて～	I 307	G-3
	日産自動車総合研究所	一目で危険な場所を識別できるマップを作る	MAP～Map×Accident×Photo～	I 308	G-4

領域	研究機関名	研究課題名	ポスタータイトル	ポスターNo.	会場-発表順
領域4	神奈川県立保健福祉大	1日の生活の中で感染するリスクのある場面とその予防策	あなたは本当にできていますか～新型コロナと私達の予防～	I 401	H-1
	観音崎自然博物館	観音崎の外來種調査	観音崎の外來種の調査	I 402	H-2
	観音崎自然博物館	神奈川県の海岸に漂着した海藻を採集しその海藻を調べる	What you can see from seaweed <海の様子を海藻から見る>	I 403	H-3
	国土技術政策総合研究所	アサリの水質浄化能力	アサリの水質浄化能力	I 404	H-4
	国土技術政策総合研究所	湖干狩りが与えるアサリへの影響	湖干狩りが与えるアサリへの影響	I 405	I-1
	防衛大学校	抗がん剤とがん細胞の相補性をつきとめる	Resilience of cancer～抗がん剤耐性の克服を目指して～	I 406	I-2
	むらせ	アミロースとアミロペクチンの配合に伴う評価の変化	米ログ	I 407	I-3
	横須賀市自然・人文博物館	ハマダングロムの斑紋パターンに影響しているのは？	環境or遺伝ハマダングロムの斑紋パターンに影響しているのは？	I 408	I-4
	横須賀市自然・人文博物館	三浦半島に身近な昆虫100種選び直す	三浦半島の昆虫調査	I 409	J-1
	横高アカデミア(総研大) 国立遺伝学研究所	倫理的問題から考える人類の未来	病気との向き合い方	I 410	J-2
	横高アカデミア(総研大) 国立遺伝学研究所	遺伝による癌を生活習慣で予防できるのか	Road to potatoes	I 411	J-3
	横高アカデミア(総研大) 国立遺伝学研究所	がん患者がもつ精神的な負担を減らす	闘病はベットとともに	I 412	J-4
	横高アカデミア(総研大) 国立遺伝学研究所	植物の色素と紫外線の阻害	Inhibition Ultra Violet!	I 413	K-1
	横高アカデミア(総研大) 国立歴史民俗博物館	年輪幅同調性について	年輪幅の同調性	I 414	K-2
	横高アカデミア(総研大) 総合研究大学院大学 本部	カメはどのように餌を認識しているか	えきをたべたいかめさん	I 415	K-3
	横高アカデミア(総研大) 総合研究大学院大学 本部	トンビと人の視線との関係における考察	トンビは人の視線を意識しているのか	I 416	K-4
領域5	NTTサービスエボリューション	音声案内での注文を利用したよりよい外食の実現	音声案内での注文～視覚障がい者が利用しやすい外食の実現～	I 501	L-1
	NTTサービスエボリューション	交通系ICカードと連携したアプリ	tAln～交通系ICカードと連携したアプリ～	I 502	L-2
	NTTサービスエボリューション	視覚障がい者向けの調味料のはかり方	オイシーズニングバー	I 503	L-3
	神奈川県立保健福祉大	高校生の認知症に対するイメージと正しく理解して貰うための手段	高校生から見た認知症	I 504	L-4
	日産自動車総合研究所	狭い道路での事故を減らすための対策	事故の被害を軽減する方法の検討	I 505	M-1
	日産自動車総合研究所	事故を引き起こすストレスは香りで解消できるのか	自動車事故をなくするための運転中のストレス解消	I 506	M-2
	日産自動車総合研究所	地域特化型アプリによる三浦半島の活性化	地域特化型観光アプリケーションの可能性の検討	I 507	M-3
	むらせ	ネリカ(New Rice for Africa)の飢餓問題への活用方法の提案	NERICA～飢餓に挑む～	I 508	M-4
	むらせ	消費者の心理的観点から、米の購買意欲を高める提案	米を食べる人を増やすには	I 509	N-1
	むらせ	お米における購買意欲向上に関するPR方法の提案	お米復活隊 ～お米離れした人々に興味を持ってもらえるパッケージとは何か～	I 510	N-2
	横高アカデミア(総研大) 国立遺伝学研究所	種の保全から見るクローン技術の実状と一般認知の差	クローンで、救おう。	I 511	N-3
	横高アカデミア(法文系)	横須賀市の人口減少問題を解決する方法	Let's make Yokosuka a better place!	I 512	O-1
	横高アカデミア(法文系)	育児に対する関心を高めるには	横須賀市の人口減少と横高生	I 513	O-2
	横高アカデミア(法文系)	横須賀に新たな魅力を作ろう	すかりんばーく	I 514	O-3
横高アカデミア(法文系)	横須賀市が活気のあるイベントを行うにはどのような宣伝を行えばよいか	新時代のPRについて	I 515	P-1	
横高アカデミア(法文系)	子どもが楽しめるイベントとは	横須賀市を盛り上げるイベントの提案	I 516	P-2	
横高アカデミア(法文系)	横須賀市を子育てのしやすい街にしよう	ぼっかばか横須賀	I 517	P-3	
領域6	NTTサービスエボリューション	視覚障がい者の音楽ライブ鑑賞の補助	視覚障がい者が“観る”音楽ライブ～骨伝導イヤホンで伝える臨場感～	I 601	Q-1
	NTTサービスエボリューション	スポーツ会場内での移動の支援	GUIDE	I 602	Q-2
	神奈川県立金沢文庫	ベリー来航	M.C.ベリーはなぜ日本に来航したのか	I 603	Q-3
	神奈川県立金沢文庫	保存環境の変化が及ぼす保存対象物の損傷度合いの違い	物の保存と環境～VS諸行無常～	I 604	Q-4
	むらせ	外国産精米との比較にみる日本米が好まれる理由の考察	日本の米はなぜ日本人の口に合うのか	I 605	R-1
	横須賀市自然・人文博物館	分かりやすく効果的にくずし学を学ぶ方法とは	くずし学の効果的な勉強方法について	I 606	R-2
	横高アカデミア(総研大) 国立歴史民俗博物館	炭素14の活用方法について	C14の新しい活用方法について～ウィルスとC14の関係性を調べてみた～	I 607	R-3
	横高アカデミア(総研大) 国立歴史民俗博物館	島原の乱における援軍期待	島原の乱における援軍期待	I 608	R-4

発表プログラム

領域	グループ数	会場		9:45~10:00	10:00~10:15	10:15~10:30	10:30~10:45
				11:00~11:15	11:15~11:30	11:30~11:45	11:45~12:00
領域 1	4G	A	1年1組	101	102	103	104
領域 2	15G	B	1年2組	201	202	203	204
		C	1年3組	205	206	207	208
		D	1年4組	209	210	211	212
		E	1年5組	213	214	215	/
領域 3	8G	F	会議室	301	302	303	304
		G	B2多目	305	306	307	308
領域 4	16G	H	1年6組	401	402	403	404
		I	1年7組	405	406	407	408
		J	2年1組	409	410	411	412
		K	2年2組	413	414	415	416
領域 5	17G	L	B3多目	501	502	503	504
		M	サイエンス	505	506	507	508
		N	2年3組	509	510	511	/
		O	2年4組	512	513	514	/
		P	2年5組	515	516	517	/
領域 6	8G	Q	2年6組	601	602	603	604
		R	2年7組	605	606	607	608

以下の空欄の中に、当日聴講する会場を記入しましょう。

※発表するところは○をつけましょう。

9:45~ 会場:	➔	10:00~ 会場:	➔	10:15~ 会場:	➔	10:30~ 会場:
11:00~ 会場:	➔	11:15~ 会場:	➔	11:30~ 会場:	➔	11:45~ 会場:

アブストラクト集



研究機関名	港湾空港技術研究所	ポスター番号	I 101
ポスタータイトル	安全かつ効率的なマンホールを使用したカメラでの栈橋の下の点検方法		
アブストラクト	従来の栈橋の点検方法では、潜水士が潜って点検する方法や小船で栈橋の下に入って点検する方法などがある。しかし、それらの方法では時間がかかり、作業員への負担や危険が大きいため新たな点検方法が必要とされている。そこで私達は、安全かつ効率的なマンホールを使用したカメラでの点検方法を考えた。		

研究機関名	日産アーク	ポスター番号	I 102
ポスタータイトル	Forever fragrance		
アブストラクト	本研究では、人が好む匂い、所謂「良い匂い」のサンプルを用意し、成分分析をした結果から考察する。他人から好感を得る際には、匂いが大きな役割を果たしているのではないかと考え、その匂いを纏うことにより、好感を得ようという目的がある。結論として、バニラエッセンスと緑茶には似ている点があった。		

研究機関名	日産自動車総合研究所	ポスター番号	I 103
ポスタータイトル	自転車の交通ルール～事故発生の少ない交差点にする～		
アブストラクト	私たちの高校では自転車で登下校している人が多くいる。そこで、二段階右折等の自転車の交通ルールや、交差点での、自転車ならではの危険性について説明することで、高校生の自転車事故を削減することにつながると考えた。		

研究機関名	横高アカデミア（総研大）国立情報学研究所	ポスター番号	I 104
ポスタータイトル	自然災害から自分の身や大切な人を守る為に		
アブストラクト	日本で頻繁に発生する自然災害から身を守るには適切な避難行動を取る必要がある。そこで私たちは、防災における重要な知識を楽しくつけられるようなクイズを制作した。使用したソフトはUnity。実際にゲームを体験した方々にアンケートを取った。その結果、このゲームを通して防災における重要な知識を身に付けられた人が多くいた。また、地震の防災について知らなかった人が多かった。そのため、特に地震が発生した際の注意を全体に促す必要がある。制作したゲームは人々が楽しく防災知識を身に付ける行動に貢献できたらと思う。		

研究機関名	日産アーク	ポスター番号	I 201
ポスタータイトル	砂鉄の研究		
アブストラクト	既存の分析結果から、島根県内の二つの海岸の砂鉄の成分構成は類似しており、鳥取県のものとは大きく異なった。このことから、神奈川県東部である鎌倉、野比と神奈川県西部では、位置、近い火山などが違うため、東部の二箇所の砂鉄の成分は類似しており、西部とは異なると仮定した。島根県と鳥取県で含有率が大きく異なる成分の具体例としてはMgやTiなどが挙げられる。		

研究機関名	日産アーク	ポスター番号	I 202
ポスタータイトル	おいしいアイスが食べたい！		
アブストラクト	「アイスを冷凍すると味が落ちます。」とアイスの容器に書いてあった。なぜ凍らせただけで味が落ちるのか疑問に思い、「再冷凍すると、水分と油分が分離したまま固まるので舌ざわりが悪くなったり味が落ちたりする」という仮説を立てた。そして、溶ける前のアイスと、溶けた後再冷凍したアイスを電子顕微鏡で観察した。結果は当日報告する。		

研究機関名	日産アーク	ポスター番号	I 203
ポスタータイトル	もうチョークは折らせない！		
アブストラクト	日々何気なく使われているチョークですが、先生がチョークをよく折ることで、掃除の量や先生や生徒の不快感が増加しています。そこで本研究では、折れにくいチョークを見つけることを目的とし、その達成のために素材や色による強度の違いを3点曲げ試験によって調べました。本研究によって強度にはさまざまな種類があるという知見を得ました。結果は当日発表します。		

研究機関名	日産アーク	ポスター番号	I 204
ポスタータイトル	マスクの洗濯回数と細孔の開きの相関性 ～不織布マスクは洗えるのか～		
アブストラクト	新型コロナウイルス感染防止のためマスクの需要が増え、不足した。それに伴い不織布マスクを洗濯する人が出てきた。そこで私たちは不織布マスクを洗濯して使用することは可能なのか、また、可能な場合の使用可能回数を布マスクと比較して調査した。調査前、布製マスクの方が洗濯に向いており、洗濯機で洗う方が長持ちするという仮説を立てたが、結果は異なるものとなった。		

研究機関名	むらせ	ポスター番号	I 205
ポスタータイトル	え？まだブレンド米食べてないの？		
アブストラクト	近年、「食のグローバル化」が進み、外国のジャンクフードなどが日本にもたらされ、若者の「お米離れ」が問題視されている。そのため、若者のニーズに合わせて、若者が「食べたい」と思えるようなブレンド米を作ることを目的に研究を始めた。本研究では高校生を対象に、昼食時に焦点を当て、腹持ちが良く食感が硬めのお米が人気という仮説を元に食味官能試験を行った。その結果、仮説の通り腹持ちが良く食感が硬めのお米が好まれることが判明した。		

研究機関名	横須賀市自然・人文博物館	ポスター番号	I 206
ポスタータイトル	テキストマイニングとクロス集計を用いた博物館展示のイメージ分析		
アブストラクト	私たちの班では、アンケートの裏側を読みとる研究をしています。その手段として使ったのが2種類の結果を主にExcelを用いてかけ算九九のようにつなげて傾向などを読みとるクロス集計と、たくさんの文章を文節・単語ごとに区切り、有用な情報を大まかに読みとるテキストマイニングです。より有用なデータを得るにはより多くの回答が必要であることが分かってきましたがアンケートの表面上の結果だけでなく「裏側」の部分がこの2つの手法によって見出せるようになりました。		

研究機関名	横須賀テレコムリサーチパーク	ポスター番号	I 207
ポスタータイトル	電磁波を用いた地震予測		
アブストラクト	日本に住む以上、大地震にいつ何時遭遇するか分からない。ある学会の研究報告では大地震前にとある予兆現象が発生し、その検知により地震発生の予測をすることができるという。私たちは電波とその予測法のキーとなる「スプラディックE層」と呼ばれる電離層の存在を知り、その発生の過程に関する仮説を立て、調査を行った。結果としてその仮説が真であると断言するには至らなかったが、次年度での研究においても視点を変えて研究を継続し、予測する手段に関する研究を進めていく。		

研究機関名	横須賀テレコムリサーチパーク	ポスター番号	I 208
ポスタータイトル	ダークマターと重力レンズ		
アブストラクト	ダークマターの分布を知ることがを目的に課題研究を進めている。重力レンズは質量を持った物体の周りの空間が歪むことで空間を直進する光も曲がって進む現象であることが分かった。研究を進めた結果、重力レンズ効果が惑星など重力をもつものがない空間でも発生していることから、ダークマターは存在しているという結論に至った。今後はダークマターの正体はどのような物質なのか？という疑問について研究を進めていく。		

研究機関名	横須賀テレコムリサーチパーク	ポスター番号	I 209
ポスタータイトル	ホログラフィック技術の応用		
アブストラクト	私たちは、従来のDVDなどよりも高密度・大容量化が可能なホログラフィックメモリーに焦点を当てた。ホログラフィックメモリーとは、2次元であるデータを3次元に記録することで、記録容量を大幅に増やすというものである。私たちは、2次元のものを3次元に記録するという次元の変換が可能なのであれば、3次元のデータ(3D映像などのデータ)を2次元の記録媒体に記録することができるのではないかと結論に至った。		

研究機関名	横須賀テレコムリサーチパーク	ポスター番号	I 210
ポスタータイトル	ブラックホールの性質について知る。ブラックホールは銀河の中心にあるのか？		
アブストラクト	ブラックホールとは何なのか、ブラックホールにはどんな性質があるのかを知ることがを目的としている。配布された資料やインターネットによる調査の元、ブラックホールは銀河の中心にあるのか？という疑問にたどり着き、それを解決するために尽力した。結果として、ブラックホールの過去の観測結果から「ブラックホールは銀河の中心に存在する」という結論が得られた。他にも、各自が気になること、疑問に思ったことを調べ、結論を総合的にまとめた。		

研究機関名	横須賀テレコムリサーチパーク	ポスター番号	I 211
ポスタータイトル	5Gと気候変動		
アブストラクト	私たちの研究目的は、5G電波の活用でSDGs13の気候変動に関する課題の解決を目指すことだ。具体的には、5Gの電波の測定から、気象レーダーよりもローカルで、たくさんの気象に関する情報を得ることができるのではないかと考えた。5Gの周波数帯では、気圧や降水粒子の影響を受けることが、各資料からの調査よりわかった。実用できるかはまだわからないが、このデータを集めて分析することができれば、5Gによって気候変動への対策が出来るのではないかと考えることができる。		

研究機関名	横須賀テレコムリサーチパーク	ポスター番号	I 212
ポスタータイトル	県横生vs. BYOD		
アブストラクト	<p>私たちのグループでは、横須賀高校内で使えるWiFi「BYOD」を校内の人々に快適に使って貰えるように、WiFiの電波強化を強化することを目的として研究した。研究の結果、クラスの中でも場所によって繋がりにくい場所があったり、アルミホイルを用いて電波を反射することで電波を強化できることなど、BYODを快適に利用できるような方法を発見することが出来た。</p>		

研究機関名	横高アカデミア（総研大）国立情報学研究所	ポスター番号	I 213
ポスタータイトル	なぜスマホが熱くなるのか		
アブストラクト	<p>コンピュータの熱とスペックの関係を調べ、効率化を図ることが目的だ。研究手法はCPUの温度を直接測る形にした。そこで私達は動作に影響を与えているのは、熱ではなく、CPUが関係しているのではと仮説を立てた。結果はCPUが最高74度まで上昇し、ファンのプラグを抜いたものに関しては直ぐに電源が落ちてしまった。このことから仮説が正しいと思われる。今後は熱の発生を抑える研究をしていきたい。</p>		

研究機関名	横高アカデミア（総研大）国立情報学研究所	ポスター番号	I 214
ポスタータイトル	Which is better ?		
アブストラクト	<p>私達はプログラミングを学んでゲームを作りたいと考えました。その次に勉強につながるものになりたいと思い、コンピュータと紙どちらの方が効率的に学べるか研究することにしました。実験では現在被験者6人に英単語10個を6分間で紙とコンピュータそれぞれの方法で勉強してもらいその後、テストを受けてもらって結果を比較しました。私達の予想ではコンピュータの方が結果が良くなると考えましたが、コンピュータと紙ほぼ同じ結果となりました。</p>		

研究機関名	横高アカデミア（総研大）国立情報学研究所	ポスター番号	I 215
ポスタータイトル	人間の強みはここに有る！		
アブストラクト	<p>私は、人間にしか無い強みを考える事を目的とし研究をしました。はじめに、「人工知能は結論に至るまでの過程を説明できない」と、「常識を持ち合わせていないため質問の本質を履き違える事がある」ことを仮説として設定し、参考文献を用いて様々な視点から検討する手法をとり研究してきました。文献調査の結果、人間にしか無い強みは「人と考え方を共有する力」「説明力」「物事の本質を捉える力」なのではないかと考えました。</p>		

研究機関名	京急百貨店	ポスター番号	I 301
ポスタータイトル	電子レシート～資源をムダにしないレシートの開発～		
アブストラクト	<p>レシートは受け取っても捨ててしまうので、紙以外の形にすることで、ゴミを減らせるのではないかと考えた。地球環境のためにレシートの再利用について考えたが、調べを進めていく中でレシートは有害物質が含まれているためリサイクルができないことが分かった。実際に本校生徒・京急百貨店従業員にアンケートを取ったところ74%の人が受け取ってからすぐに捨てていた。そこで、本研究ではレシートの電子化について考察することにした。</p>		

研究機関名	京急百貨店	ポスター番号	I 302
ポスタータイトル	食品ロス～ムダを徹底的に減らすために～		
アブストラクト	近年大きな問題となっている食品ロスをどのように減らし、より良い社会を実現していくかを考察した。本研究ではデパートで営業する3店舗からヒアリングを行うとともに、校内で食品ロスに対する意識と行動についてアンケートを実施した。研究の結果、店舗側・顧客側、双方に工夫する余地があることが分かった。		

研究機関名	京急百貨店	ポスター番号	I 303
ポスタータイトル	身近な食品ロスを減らそう～家庭と販売店の食品ロスの関係～		
アブストラクト	消費者庁によると、現在の日本では、食べられるのに捨てられている“食品ロス”が、約612万トンにも及んでいる。そこで私たちは、食品ロスを減らすにはどうすれば良いのか考察することにした。本研究では、食品ロスを減らすために販売店（供給）と消費者（家庭）との関係に注目し、両者の共通点や相違点について考察した。		

研究機関名	京急百貨店	ポスター番号	I 304
ポスタータイトル	あなたの一步で、守ろう地球(みらい)		
アブストラクト	エコ活動を知ってる人は多くても、実際にそれを意識して行動している人は少ないのではないかと考えた。そこで、私たちはエコ活動に実際に参加することで、人々の意識は変化するのではないかと仮説を立てた。エコ発電について調べた結果、床を踏むことによって発電できる床発電なら、多くの人がエコ活動に参加できるのではないかと考えた。本研究では京急百貨店に協力を依頼し、利用客に発電体験をしてもらい、エコ活動に対する意識の変容を調査した。また、調査結果から、今後の社会における床発電の実用化の可能性について考察した。		

研究機関名	電力中央研究所	ポスター番号	I 305
ポスタータイトル	天気と集中力の関係～勉強に全集中!!～		
アブストラクト	私達は、いかに集中力を高め、勉強に応用するかという所から始まり、勉強の予定を立てるのに役立てることを目的とした研究をしてきた。1学年を対象として暗記力、計算力のそれぞれのテストを、晴れ、雨、曇りの3つの天気で実施する予定であったが、異常気象により雨の日のテストが実施できず、晴れ、曇りのみのテストとなってしまった。結果を踏まえて考察した結果、天気による差はあまり見られず、今後はその他の要因も視野に入れて研究していきたい。		

研究機関名	電力中央研究所	ポスター番号	I 306
ポスタータイトル	ソーダ石灰によるCO2吸収		
アブストラクト	石炭火力発電は地球温暖化や酸性雨などの環境問題を進行させてしまう。そのため、私たちは空気中に出るCO2を減らすべく、排出口にソーダ石灰を敷き詰めた煙突のような装置を作ることを考えた。次にソーダ石灰にCO2を吸収させその質量を調べたところ、空気中のCO2の割合が減少するという結果を得ることができた。その結果を用いて他のCO2吸収方法と比較して実用化の可能性を考察した。		

研究機関名	電力中央研究所	ポスター番号	I 307
ポスタータイトル	ポリ乳酸の合成～環境に優しいプラスチックを求めて～		
アブストラクト	<p>エコマテリアル(優れた特性・機能を持ちながら、より少ない環境負荷で製造・使用・リサイクルまたは廃棄でき、しかも人に優しい材料)である生分解性プラスチックは、コスト面、耐久面などの理由で実用化が進んでいない。そこで、強度面に着目し、「植物性の粉末を混ぜることで強度をあげることができるのではないか」という仮定を立てた。今回は、その強度実験で必要となる試料全てを同じ条件で尚且つ安定して作成できる最適な条件を調べた。</p>		

研究機関名	日産自動車総合研究所	ポスター番号	I 308
ポスタータイトル	MAP～Map×Accident×Photo～		
アブストラクト	<p>横須賀にはたくさんの生活道路があり、私たちはそれを毎日利用している。多くの人を使う道だからこそ、安全でなくてはならないと考えた。そこで、「一目で危険な場所を識別できるマップを作ることを目指した。その結果、実際に危険マップを作ることができた。そして、その写真集を数名の小学生に見せ、「分かりやすい」という感想を得ることができた。大人だけでなく、子どもにも活用できる可能性を感じた。</p>		

研究機関名	神奈川県立保健福祉大	ポスター番号	I 401
ポスタータイトル	あなたは本当にできていますか～新型コロナと私達の予防～		
アブストラクト	<p>私達は感染症の有効的な予防法を多くの人に広め、感染症の流行を少しでも遅らせるため、私達のできる予防法について調査しました。意識調査・実施状況の観察・手洗い実験の3つの調査を行った結果、皆の持っている意識と実施状況に差があることが分かりました。この結果からポスター発表では手洗いの実験で出来ていなかったところや意識と実施状況の差について伝えていきます。</p>		

研究機関名	観音崎自然博物館	ポスター番号	I 402
ポスタータイトル	観音崎の外来種の調査		
アブストラクト	<p>観音崎に生息する在来種と外来種を調べ、その相違点を明らかにすることで在来種の保護と生態系の保全のために何ができるかを考察する。観音崎公園内の池で生物を採集し、調査した結果、生息する外来種は雑食性の種が多く、在来種よりも個体数が多いことがわかった。このことから外来種は繁殖力が高く、在来種を捕食して減少させながら、個体数を増やしていると考えられることができる。</p>		

研究機関名	観音崎自然博物館	ポスター番号	I 403
ポスタータイトル	What you can see from seaweed <海の様子を海藻から見る>		
アブストラクト	<p>神奈川県、三浦半島周辺の海岸によって漂着する海藻の種類が違うのかということが疑問になり、調査を行った。私たちは、荒崎、野比、油壺、三戸浜、江ノ島、観音崎といった海岸に行き、漂着している海藻を採集・同定した。その結果、海岸によって海藻の種類が違うものもあれば同じものもあるということがわかった。また、それぞれの海藻が生息する海の深さもばらつきがあるということがわかった。</p>		

研究機関名	国土技術政策総合研究所	ポスター番号	I 404
ポスタータイトル	アサリの水質浄化能力		
アブストラクト	<p>私たちは、アサリの水質浄化能力の光による変化を調べた。光の強さがライトを当てた水槽、室内光の水槽、光を遮った水槽の3つの水槽にアサリを入れ、水との濁度の差を調べた。その結果は、室内光と光を遮った水槽の濁度の差は同じだったが光を当てた水槽は水との濁度の差が大きくなった。つまりアサリは強い光が当たると水質浄化能力が低下するきとがわかった。この結果から、近年深刻化している水質汚染を緩和させる方法を考えたところ、干潟や海岸沿いの街頭の設置を規制する必要があるのではないかと結論になった。</p>		

研究機関名	国土技術政策総合研究所	ポスター番号	I 405
ポスタータイトル	潮干狩りが与えるアサリへの影響		
アブストラクト	<p>コロナによって潮干狩りをしていない干潟のアサリの状態や数を調べることで潮干狩りがアサリに与える影響を知り、今後の潮干狩りの在り方について考えた。仮説としてアサリの数が増えることで一体あたりの栄養が減り、大きさは小さくなると予想していた。しかし、実際には個体数は減り、大きさの分布は変化しなかった。その結果から、今年を含め産卵できる20mm以上のアサリは採集されてしまい、少なくなっているため、潮干狩りの際の大きさの下限を引き上げるべきである。</p>		

研究機関名	防衛大学校	ポスター番号	I 406
ポスタータイトル	Resilience of cancer～抗がん剤耐性の克服を目指して～		
アブストラクト	<p>私たちは国民の死亡原因No. 1のがんについて研究していく中で、抗がん剤であるエトポシドとがんとの関わりについて調べた。エトポシドは各がん細胞（肺がん、小細胞肺がん、胃がん、すいがん）に同じ程度の効果があると仮説したが、防衛大学校で実験をしてみるとがんの種類によってエトポシドの効き方は様々であった。そのためがんの種類によってエトポシドの投与量を調節できる。今後は抗がん剤投与を中断したがん細胞の増殖の変化を観察していきたい。</p>		

研究機関名	むらせ	ポスター番号	I 407
ポスタータイトル	米ログ		
アブストラクト	<p>本研究の目的は「日本人が好むお米の特徴について知ってもらうこと」である。日本人は古くからアミロペクチンの含有量が100%のもちを食べてきた。そこで日本人はアミロペクチンの含有量が多いお米を好むのではないかと仮説をたてた。仮説を検証するために生徒を対象に、アミロペクチン、アミロース、タンパク質の含有量の異なるお米の食べ比べを実施した。その結果、アミロースとアミロペクチンの配合の違いでは評価に差はなかった。しかし、タンパク質の含有量が多いお米の方が、より多くの人に好評という結果が得られた。</p>		

研究機関名	横須賀市自然・人文博物館	ポスター番号	I 408
ポスタータイトル	環境or遺伝ハマダンゴムシの斑紋パターンに影響しているのは？		
アブストラクト	<p>私達がこの研究をする目的はハマダンゴムシの斑紋パターンが環境によって変化するか？それとも遺伝によって変化するのかわかりませんでしたからです。そのために、採集・仕分けや解剖を通じた観察、環境への適応能力があるか確認するために実験を行いました。これらの実験からハマダンゴムシの斑紋パターンは、環境によって変化するのではなく、遺伝によって変化するという可能性があることがわかりました。</p>		

研究機関名	横須賀市自然・人文博物館	ポスター番号	I 409
ポスタータイトル	三浦半島の昆虫調査		
アブストラクト	横須賀市自然・人文博物館では、三浦半島で身近な昆虫が100種選定されていた。しかしそれは、目ごとに均等に選ばれたり、データが古かったため、今回、自分たちは新たに発見回数が多かったものを選び直した。その過程で、100種の昆虫が自分たちにとって本当に身近なのか、よく知られているのか疑問に思い、自分たちで選び直した昆虫を知っているか1年生280人にアンケートをとった。その結果、ほとんどの人が10匹中4~5匹だったため、あまり知られていないという結論に至った。		

研究機関名	横高アカデミア（総研大）国立遺伝学研究所	ポスター番号	I 410
ポスタータイトル	病気との向き合い方		
アブストラクト	医療技術の発達で倫理的問題が生じている。私たちは安楽死の問題の捉え方を研究するため、研究者の方の話や、高校生（本校生徒）へのアンケートを通じ考察した。私たちの仮説は難病患者や追加治療を受け続けている患者の安楽死の選択は個人や家族の思いを尊重すべきだと考えている。調査をしてアンケートからも個人の意見を尊重すべきという声が多かった。		

研究機関名	横高アカデミア（総研大）国立遺伝学研究所	ポスター番号	I 411
ポスタータイトル	Road to potatoes		
アブストラクト	私たちは、遺伝によるがんを生活習慣で予防できるのかを研究しています。生活習慣で予防できることが分かれば、がんになっても苦しむ人が少なくなると考え研究しました。文献調査の結果、遺伝によるがんの発症率より、飲酒・喫煙・食生活の乱れによるがんの発症率が高いとわかりました。今後、prin II でも継続して研究を進めて行くつもりです。具体的には、じゃがいもを使って環境を変えた対照実験を行い、今回の考察を検証したいと考えています。		

研究機関名	横高アカデミア（総研大）国立遺伝学研究所	ポスター番号	I 412
ポスタータイトル	闘病はペットとともに		
アブストラクト	私たちはがん患者の負担を減らすために研究を進めました。それは、がんやがんの治療で苦しんでいる人を見て、負担を減らしたいと思ったからです。最初はがんの治療、次に金銭面の負担について考え、最終的に精神的での負担に焦点を当てました。そして、その中でもアニマルセラピーに絞り研究を進めました。アニマルセラピーは日常生活においても多くの良い効果があり、がん患者への利用もされていますが、日本では実際はほとんど行われていません。患者の負担を減らすため、どうやって動物と触れ合わせるか考えると、動物保護センターと病院を併合させればいいのではないかと考えています。		

研究機関名	横高アカデミア（総研大）国立遺伝学研究所	ポスター番号	I 413
ポスタータイトル	Inhibition Ultra Violet!		
アブストラクト	植物は普段から紫外線に晒されているにも関わらず、正常な葉に、人間で言う“日焼け”のような症状が見られることは少ない。そこで、私たちは植物が持つ色素が紫外線の有害な成分を妨げているのではないかと仮説を立て、実験を行った。実験として、斑入りの葉を使い、植物が元来持つ色素のある部分と、それを持たない部分を用い、その他の色を透過させた紫外線を照射した。その結果、植物が持つ色素のみが紫外線を阻害するといった結果が得られた。		

研究機関名	横高アカデミア（総研大）国立歴史民俗博物館	ポスター番号	I 414
ポスタータイトル	年輪幅の同調性		
アブストラクト	<p>私達は年輪年代測定法について調べ学習を行っている際、一部の木の年輪幅には同調性があることを知った。同調性とは、年輪のどの位置を測定しても、その推移が全て、ほぼ等しくなることを言う。木は自然のものであるのに、そんな規則性が本当にあるのかという興味と少しの不信感をもった私達は、自分たちで実験を行っても同調性は見られないという仮説をたて、自ら実験を行い、木の同調性に触れてみることにした。実際に伐採した杉の木切り株を使って年輪測定を行い、それをグラフにしてみたところ、グラフの上下動はほぼ一致。つまり、どんな年輪にもある種類の木ならば同調性があると身を持って感じる事ができた。</p>		

研究機関名	横高アカデミア（総研大）総合研究大学院大学 本部	ポスター番号	I 415
ポスタータイトル	えさをたべたいかめさん		
アブストラクト	<p>私たちはカメがどのようにして餌を認識しているかを知るために大きく分けて2つの実験をしました。1つ目はカメがエサをどのように認識するかを知るために、明るさ、気温、におい、目線など条件を変えて実験。2つ目はカメが餌を与えてくれる人を認識するかを調べるために、服装や、与えるはとを変えることでカメがそれに対して反応するかを調べました。</p>		

研究機関名	横高アカデミア（総研大）総合研究大学院大学 本部	ポスター番号	I 416
ポスタータイトル	トンビは人の視線を意識しているのか		
アブストラクト	<p>①トンビに食べ物を取られた人が多いことから、トンビは人の視線を意識した上でえさを捕獲するのではないかと考え、まずLINEでトンビにもものを取られた経験のある人にアンケートをとり、トンビにもものを取られた方向の確認をしました。②Youtubeでトンビの被害にあっている数多くの動画からトンビが飛んでくる方向を調べ、カイ二乗検定を使い、科学的に調査しました。28本の動画の結果から、トンビは人の視線を意識して行動しているという結論に至りました。</p>		

研究機関名	NTTサービスエボリューション	ポスター番号	I 501
ポスタータイトル	音声案内での注文～視覚障がい者が利用しやすい外食の実現～		
アブストラクト	<p>研究の目的は、音声案内との対話を通じた注文で一般の方だけでなく、障がい者でも手軽に外食を楽しめるようにすることである。これを実現するために私達は模擬的な実験を行った。この結果、課題点として利用者が事前に頼みたい商品がなかった場合、対話を通しての注文が難しいということなどが挙げられた。この解決案として、注文する前におすすめの商品を紹介することなどを考えた。</p>		

研究機関名	NTTサービスエボリューション	ポスター番号	I 502
ポスタータイトル	trAIn～交通系ICカードと連携したアプリ～		
アブストラクト	<p>視覚障がい者の方が駅を利用する際に改札の通過や単独での移動が困難であるという問題を解決し、視覚障がい者の方でも駅を安心して利用できるようにするため、「trAIn」（トレイン）というアプリを考えた。このアプリには、改札を通るだけで料金が支払えたり、銀行口座との連携ができたり、使用者の情報の共有が行えたりするなどの機能が搭載されている。このアイデアについて評価するため、プロトタイプを作成やインタビューを行った。その結果、このアプリの需要はあるが、非接触型というアイデアについてはJR東日本が先行研究に行っているということや、駅員を呼んでもすぐに案内を始められない、改札を通らないと駅員を呼ぶことができないという問題点などが見</p>		

研究機関名	NTTサービスエボリューション	ポスター番号	I 503
ポスタータイトル	オイシイズニングバー		
アブストラクト	この研究は視覚障がい者の方が、気軽に料理を出来るようにするために行ったものである。研究を進める中で、料理をする際に正確に調味料を量ることが難しいという事がわかった。そこで簡単なボタン操作で調味料を正確に量れる機械があると便利ではないかという仮説を立てた。その具体的な検証方法として、実物大のプロトタイプを作り、目をつぶった状態で使うことと、視覚障がい者の方にその有用性についてインタビューを行った。その結果有用性があると判明したが、ボタンの判別は手の感覚だけだとむずかしく、音声が出るとより使いやすくなると分かった。		

研究機関名	神奈川県立保健福祉大	ポスター番号	I 504
ポスタータイトル	高校生から見た認知症		
アブストラクト	年々認知症患者は増え、2025年には700万人を超えると推測されている中で、社会において体力・影響力がある高校生の私達は認知症患者をサポート出来るのではないかと考えた。そしてそのためにはまず高校生の認知症に対するイメージ意識を調査し、正しく理解してもらうことが必要だと考え、アンケートを行った。その結果高校生は認知症に対してマイナスなイメージを持っている割合が高い一方で、認知症についてもっと知りたいと感じている人が約半数いることが分かった。		

研究機関名	日産自動車総合研究所	ポスター番号	I 505
ポスタータイトル	事故の被害を軽減する方法の検討		
アブストラクト	私達は道路標識は、デザインの奇抜さが事故低減に効果的な要素ではないかと仮説を立てた。立証のために、奇抜な標識と通常のシンプルな標識との間での、視認してから標識の意味を認識できるまでの時間差を調べた。また、デザインを固定し、色を変えた標識を用意し、危険度が伝わりやすい色を調べた。その結果、奇抜な標識は認識に時間を要し、また危険を伝える為には赤か黄が突出して効果的であることが分かった。以上から、過度に奇抜(情報量が多い)なものだと認識されにくく、意味を伝えることを前提とすることが重要であると考えた。		

研究機関名	日産自動車総合研究所	ポスター番号	I 506
ポスタータイトル	自動車事故をなくすための運転中のストレス解消		
アブストラクト	多くの事故は、運転中に発生するストレスによって引き起こされている。また、香りがストレスを低減するという先行研究があることから、運転者のストレスを香りによって減らすことが出来れば、自動車による事故を減らす可能性を示唆できると考えた。そして、三浦みかんとラベンダーの香りを嗅いだ時と、何も嗅いでいない時でのストレス値の変化を実験を行って調べ、三浦みかんとラベンダーによって交通事故を減らすことが出来る可能性を示唆した。		

研究機関名	日産自動車総合研究所	ポスター番号	I 507
ポスタータイトル	地域特化型観光アプリケーションの可能性の検討		
アブストラクト	現状、横須賀市は訪問観光客数が少ない。そこで、観光客を増やすにはどうすればいいのかと考えた。近年、若年層の使用アプリ数は増加しており、地域に特化したアプリケーションを提案することで貢献できると考えた。アプリの機能には様々な差別化を図ることを提案した。学生にアプリを提示した後に、アンケートを実施したところ58%の人が「便利だ」と回答した。以上のことから、地域アプリには今後の大きな可能性を有していると結論づけた。		

研究機関名	むらせ	ポスター番号	I 508
ポスタータイトル	NERICA～飢餓に挑む～		
アブストラクト	ネリカとはアフリカ稲とアジア稲を交配することで開発された稲で、主にアフリカで栽培されている品種である。世界中の飢餓に苦しむ人々の命を救うため、荒れた土地でも育つ長所をもつネリカが飢餓問題解決の救世主となるという仮説をたてた。その仮説の立証のため気温と降水量からネリカの育つ地域を絞り、その中の3つの国でシミュレーションを行った。研究の結果、ネリカはアフリカ以外の飢餓で苦しんでいる国でも栽培することが可能であり、飢餓を救う可能性があることが分かった。		

研究機関名	むらせ	ポスター番号	I 509
ポスタータイトル	米を食べる人を増やすには		
アブストラクト	近年、日本人のコメ離れが進んでいる傾向が見られる。その状況を改善するために、①「食生活とコメ」と②「購買意欲を高めるための商品の工夫・配置」の2つの観点から研究をした。①の観点から調査をした結果、「手軽に食べられない」・「朝は時間がない」という理由から米を食べる人が少ないことが分かった。そこで「食べやすさ」「時間短縮」という課題をクリアした商品を提案した。 ②の観点から調査をした結果、現在のお米売り場に問題があることが分かり、この問題を解決すべくお米売り場にお米を使ったレシピを置くなどの購買意欲を高めるための工夫を提案した。		

研究機関名	むらせ	ポスター番号	I 510
ポスタータイトル	お米復活隊～お米離れした人々に興味を持ってもらえるパッケージとは何か～		
アブストラクト	私達はお米を普段購入しない人々に購入してもらうためのアプローチについて考えた。アンケート調査の結果、消費者は変化を嫌い安定を求める傾向にあり、新商品に対して抵抗感がある事がわかった。 それにより、企業側に利益が出ず、さらなる開発に対する躊躇が生まれる。新商品が消費者に浸透しなくなる、お米が売れなくなるという悪循環が生じているのではないかと考察した。 その上で、この悪循環を解決すべくSNSの活用や世代に合わせたパッケージ等でより新しいスタイルのお米について提案した。		

研究機関名	横高アカデミア（総研大）国立遺伝学研究所	ポスター番号	I 511
ポスタータイトル	クローンで、救おう。		
アブストラクト	私達の研究目的は、絶滅危惧種の保全を通じてクローン技術の実状と一般認識の差を知ることだ。研究動機は、学校のトウキョウサンショウウオをクローン技術を使って救えないかと考えたことだ。クローン技術の認知度を調べるアンケートの結果、聞いたことがある人は多かったが、実際に作ることは反対・考えたことがないと答えた人が半数以上だった。クローン作成の意義や安全性を伝え、この差をうめていくべきだと考えた。		

研究機関名	横高アカデミア（法文系）	ポスター番号	I 512
ポスタータイトル	Let's make Yokosuka a better place !		
アブストラクト	私たちは横須賀市の人口減少問題について研究を行った。この問題には「若年層離れ」が大きく関与している。そこで「子育て世代の定住」を実現させることで問題解決に至ると仮説を立てた。まず、子育て世代の現状を知るため小学校の保護者対象にアンケートを行った結果から「子どもとの接し方」という点に焦点を当てた。親子で楽しめるイベントを企画したので、来年実施したい。このようなイベントを増やすことで横須賀市を子育てのしやすい街にする効果があると考えている。		

研究機関名	横高アカデミア（法文系）	ポスター番号	I 513
ポスタータイトル	横須賀市の人口減少と横高生		
アブストラクト	<p>神奈川県の子育減少の理由は「自然減」であることが分かった。そこで若い世代に注目し、若い世代の子育てに対する興味が薄いのではないかと予想のもと、横須賀高校の生徒を対象にアンケートをとった。しかし、結果は子育てに前向きな考えが8割以上を占めていた。一方、横須賀市の子育て支援策について知っている人が極めて少なかった。その点に着目し、子育て支援策の1つである“すかりぶ”についてプレゼンテーションを行い、事後アンケートをとった結果、“すかりぶ”について多くの人に知ってもらうことができた。</p>		

研究機関名	横高アカデミア（法文系）	ポスター番号	I 514
ポスタータイトル	すかりんぱーく		
アブストラクト	<p>横須賀市の人口減少という課題を解決するために、私たちは横須賀市の魅力となるものを作りたいと考えた。そこで横須賀市が掲げている「子どもが主役になれる街」というテーマを元に2つの取り組みを提案する。1つ目は子育て支援施設を作るということ。子どもが安心して遊ぶことができ、親も楽しめるというポイントに重点を置いた。2つ目は子どもが成長できるイベントを行うこと。子どもたちだけで仮の街づくりを運営させることで、社会の仕組みやルールに触れさせる。</p>		

研究機関名	横高アカデミア（法文系）	ポスター番号	I 515
ポスタータイトル	新時代のPRについて		
アブストラクト	<p>横須賀市のイベントカレンダーを見た際に、イベントの宣伝効果が低いのではないかと考え、この研究課題を設定した。イベントの回数や宣伝方法の分析、市役所の方などへのインタビューを重ね、イベントの規模や目的によって宣伝方法が分けられていることが分かった。今後はSNSなどで“インフルエンサー”と呼ばれる人の協力を受けるなど、継続してメリハリをつけ宣伝していく方法を考える。</p>		

研究機関名	横高アカデミア（法文系）	ポスター番号	I 516
ポスタータイトル	横須賀市を盛り上げるイベントの提案		
アブストラクト	<p>私たちは、横須賀市が抱える大きな問題である人口減少に着目した。この問題を解決するために、子どもや子育て世代の方が横須賀市に長く住める方法を提案したいと思い、親子で楽しめるイベントを調査・企画することをテーマとして設定した。また、横須賀市在住の子育て世代には、子どもに教育効果をもたらすイベントの需要が高い、という仮説を立て調査した結果、横須賀の歴史や飲食のイベントの需要が高いことが分かった。</p>		

研究機関名	横高アカデミア（法文系）	ポスター番号	I 517
ポスタータイトル	ぽっかぽか横須賀		
アブストラクト	<p>私たちは横須賀市の人口減少を食い止めるために、子育て世代に移住してもらうことが必要だと考え、横須賀市を子育てのしやすい街にする、という研究課題に取り組んできた。そこで横須賀市で子育てをしている人の希望に応えることによって、横須賀市が子育てしやすい街になるという仮説をたて、近隣の小学校に通う児童の保護者の方々にアンケートをとった。そしてアンケート結果から見えた問題点を解決するための政策を考え、まとめた。</p>		

研究機関名	NTTサービスエボリューション	ポスター番号	I 601
ポスタータイトル	視覚障がい者が“観る”音楽ライブ～骨伝導イヤホンで伝える臨場感～		
アブストラクト	<p>研究の目的は、視覚障がい者の方が音楽を聴く際に生じる問題を解決し、誰もが音楽をライブ会場で楽しめるようにすることである。その問題を解決するために、骨伝導イヤホンを用いて他の観客の盛り上がり伝えることを仮説として用いた。そうすることで会場全体の一体感を高められると考えた。評価方法は、実際にライブ映像を流し、観客の盛り上がり様子を「音声ガイド」で伝えることで、他の観客との一体感が生まれるかを検証したものである。その結果「音声ガイド」があったほうが、視覚障がい者の方にとって、安心感が生まれるとわかり、研究の有用性を得ることができた。</p>		

研究機関名	NTTサービスエボリューション	ポスター番号	I 602
ポスタータイトル	GUIVE		
アブストラクト	<p>健常者と視覚障がい者が共にスポーツ観戦を楽しむために、視覚障がい者の会場内での移動をバイブレーションで様々な信号を出すことでサポートできるシステムを考えた。検証の結果、視覚障がい者自身が多少周りの注意する必要があるが、目的地までの移動は十分可能だと分かった。また有用性について視覚障がい者の方にインタビューを行ったところ、この機能に加えて目的地までの距離や時間などの情報があるとより良いことが分かった。</p>		

研究機関名	神奈川県立金沢文庫	ポスター番号	I 603
ポスタータイトル	M. C. ペリーはなぜ日本に来航したのか		
アブストラクト	<p>ペリーの来航が日本開国のきっかけとなったことは多くの人知っている。しかし、その過程や外国の動きなどを知る人は少ないと考え、私たちはペリー来航について、外国などの外からの視点で調べた。それぞれのメンバーが別の視点から調べ、それらをまとめる形でポスターを作成した。調べると、当時のアメリカの情勢が不安定であったことやアメリカ産業の発展、欧州諸国の動きなどがアメリカの日本開国への動きを助長し、その動きに他国も敏感に反応していたことがわかった。</p>		

研究機関名	神奈川県立金沢文庫	ポスター番号	I 604
ポスタータイトル	物の保存と環境～VS諸行無常～		
アブストラクト	<p>人類が後世に伝えていくべき、過去の人々が生きてきた証である文化財。それらの保存にどれほどの努力が費やされているのか。また、保存環境が保存対象物にどれ程の影響を与えるのかを知るためにこの実験を行いました。実験方法としては、和紙と洋紙の二種類で紙の束をいくつか作り、それらを温湿度を測りながら様々な環境下で保存し、変化を調べました。それぞれの場所において目に見える変化はなかったものの、湿度と温度の違いで和紙の方に若干の重さの違いが見られました。</p>		

研究機関名	むらせ	ポスター番号	I 605
ポスタータイトル	日本の米はなぜ日本人の口に合うのか		
アブストラクト	<p>日本米と外国米を比較し、日本人の口に合う理由を知ってもらうことで米のよさ、おいしさを広めることを目的とした研究である。仮説としては、日本米は糖分が多く粘り気があり水分を豊富に含む点が日本人の口に合うとし、食味官能試験を30人を対象に行った。コシヒカリ、カルロース、タイ米の各国のお米で実施したところ、日本米であるコシヒカリが群を抜いて人気があった。また、同時に行ったアンケート結果から仮説のとおりであると対象者の意見から分かった。しかしながら、「日本人は昔から、米を食べている」という習慣から日本人が好まれるという点においては今後の課題であることも分かった。</p>		

研究機関名	横須賀市自然・人文博物館	ポスター番号	I 606
ポスタータイトル	くずし字の効果的な勉強方法について		
アブストラクト	<p>研究機関からご提示いただいた「古文書の教材としての活用に関する研究」というテーマについて古文書を読むにはくずし字を理解すべきであると考えた。本研究ではその導入として、ひらがなのくずし字に焦点をあて、「クロスワードなどの身近なものから学ぶことで効果的に勉強することができる」という仮説をたてた。その立証のためにひらがなのくずし字を用いたクロスワードを作成・配布し、本校1年生約280人に解答してもらったところ、クロスワードは効果的ではないという結果に至った。</p>		

研究機関名	横高アカデミア（総研大）国立歴史民俗博物館	ポスター番号	I 607
ポスタータイトル	C14の新しい活用方法について～ウイルスとC14の関係性を調べてみた～		
アブストラクト	<p>きっかけは炭素14が薬のトレーサーとして使用されていると知った時に、他にも人体に関わることで人の役に立つ炭素の活用はできないかと思ったからです。この実験が可能になればウイルスの有無が確認できるのですが、残念ながらウイルス自体を一つずつ調べる（ウイルスのトレーサー化）というのは現実的に難しいという結論に至りました。しかし、ウイルスを選択的に攻撃する薬が開発されれば薬をラベリングすることでこの実験を成功することができるということが分かりました。</p>		

研究機関名	横高アカデミア（総研大）国立歴史民俗博物館	ポスター番号	I 608
ポスタータイトル	島原の乱における援軍期待説		
アブストラクト	<p>「島原の乱において、ポルトガルからの援軍が来ていた。来る予定があった。」という学説は関連本ではよく目にする説で、「島原の乱はポルトガルvsオランダの代理戦争なのではないか。」という俗説の根拠となっている。にも関わらず、この説を立証できる程の十分な史料は存在せず、疑問点も多かった。結論から言うと、仮説を立証することは出来なかった。矢文の内容や、文献調査などから、一揆軍がポルトガルの存在自体は知っていたことや、「南蛮＝先進国」という意識があったことがわかった。</p>		



MEMO





MEMO



